

「令和4年度全国学力・学習状況調査」新城市の状況について

新城市教育委員会

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、その結果を今後の教育活動に役立てていくことを目的としています。令和4年度の結果からわかる児童生徒の状況を報告します。

1 調査概要

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日（火）
- (2) 調査対象 市内小学6年生、中学3年生
- (3) 調査事項 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
質問紙調査（学習・生活）

2 各教科の調査の結果（全国の平均正答率との比較）

(1) 小学校

	調査の内容・領域
国語	<p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none">・漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く力。・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力。・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none">・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力。・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える力。・人物像や物語の全体像を具体的に想像する力。・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える力。・話し言葉と書き言葉との違いを理解する力。
算数	<p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none">・正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する力。・図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する力。・被乗数に空位のある整数の情報の計算をする力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none">・二つの数の最小公倍数を求める力。・百分率で表された割合を分数で表す力。・加法と乗法の混同したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述する力。・示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する力。・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量を求める力。

調査の内容・領域	
理科	<p>全国の平均正答率と比較し、同程度の部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつ力。
	<p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メスシリンダーという器具の名称や正しい扱い方を理解する力。 ・日光は直進することを理解する力。 ・昆虫の体のつくりを理解する力。 ・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ力。

(2) 中学校

問題調査の内容・領域	
国語	<p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する力。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴を理解する力。 ・表現の技法について理解する力。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する力。 ・助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う力。 ・漢字の行書の読みやすい書き方について理解する力。
	<p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然数を素数の積で表す力。 ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力。 ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力。 ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取る力。 <p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反例の意味を理解する力。 ・問題の場面における考察の対象を明確に捉える力。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力。 ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解する力。 ・簡単な連立二元一次方程式を解く力。
数学	

調査の内容・領域	
理科	<p>全国の平均正答率と比較し、やや優れている部分</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用する力。 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合うを矢印で表し、その力を説明する力。 地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析する力。
	<p>全国の平均正答率と比較し、やや弱い部分</p> <ul style="list-style-type: none"> 液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用する力。 実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善する力。 予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探求の方法について検討し、探求の過程を見通す力。 アリの行列のつくり方を探求する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行う力。

3 生活状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
今住んでいる地域の行事に参加していますか	児童生徒ともに「参加する」と回答した割合が全国と比べ上回る。
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）	「よくある」と回答した小学生は、全国と比べやや下回り、中学生は全国と比べやや上回る。
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか	「2時間以上」と回答した児童生徒は、全国と比べ上回る。

4 学習状況に関する質問紙調査の結果

児童生徒への質問	児童生徒の回答の状況
昨年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	「ほぼ毎日使用していた」「週1回以上使用していた」と回答した児童生徒は、全国と比べ上回る。
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	「ほぼ毎日使用している」と回答した小学生は全国と比べやや下回り、中学生は大幅に上回る。「週1回以上使用している」と回答した小学生は全国と比べ上回り、中学生は大幅に上回る。

算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	「当てはまる」と回答した中学生は、全国と比べ上回る。
将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか	「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した小学生は、全国と比べ下回り、中学生は上回る。

5 調査結果の分析と、今後の指導改善等の取り組み

本年度の学力学習状況調査の結果からも、地域の行事に積極的に参加している児童生徒の姿を再確認することができた。

昨年度の調査に引き続き、多くの児童生徒が毎日あるいはほぼ毎日、朝食を食べて登校していることや、決まった時間に起床・就寝していることが確認できた。規則正しい生活を送っている様子がうかがえる。引き続き家庭との連携を図り、「共育」の合言葉にもなっている「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を目指す。本年度調査では、児童生徒ともにテレビゲームをしたり、スマートフォンを触っている時間が、全国と比べて上回る値が見られた。メディアの使い方については、児童生徒が適切な使い方を身につけられるように、「携帯電話・スマートフォン等の利用についてのガイドライン」を活用するなど、家庭とも連携を図っていく。

学習状況の調査より、GIGA スクール端末が、授業において効果的に活用されている様子がうかがえる。本市が GIGA スクール端末をいち早く導入したことにより、授業で積極的に利用し、端末を活用した学習活動が浸透していることがわかる。今後は、家庭学習においても GIGA スクール端末を活用したりするなど、幅広く活用するための方策を研究し、実践していく。

小学校、中学校ともに自己肯定や自己実現に関する質問で、前向きな回答をしている児童生徒の割合が全国と比較して下回っていることが気付きである。主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、児童生徒が主体的に学びに向かう意欲を高めたり、道徳教育、系統的なキャリア学習等を充実させたりすることにより、改善を図っていく。